

令和 7 年 8 月 8 日

## 令和 6 年度 特別の教育課程の実施状況等について

滋賀県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
米原市立春照小学校	米原市教育委員会	公立

## 1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
米原市立春照小学校	<a href="https://suijyou-e-maibara.edumap.jp/distinctive-activities">https://suijyou-e-maibara.edumap.jp/distinctive-activities</a>

※必要に応じて行を追加すること。

## 2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
米 原 市 立 春 照 小 学 校	<a href="https://suijyou-e-maibara.edumap.jp/distinctive-activities">https://suijyou-e-maibara.edumap.jp/distinctive-activities</a>	<a href="https://suijyou-e-maibara.edumap.jp/distinctive-activities">https://suijyou-e-maibara.edumap.jp/distinctive-activities</a>

※必要に応じて行を追加すること。

## 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

## (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

## (2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択

した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・実施している
- ・実施していない

<特記事項>

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

子どもたちは素直で真面目であるが、人数が少なく単級のためクラス替えがなく、人間関係が固定化しやすい。互いに切磋琢磨する雰囲気は乏しく、言われたことは真面目にやり遂げようとするが、積極的に人とかかわったり発表したりすることが苦手な児童が多い。

そこで、英語科の学習を通して、子どもたちが自信をもって、積極的に人とかかわる力を育成することが大切であると考え、取り組みを進めている。

本校では、英語専科の配置がないためMICと担任による指導で英語科の授業により安心して親しみをもって参加できるように進めている。そして、MICやデジタル教材の活用により、ネイティブな英語の発音を聞き、音声で慣れ親しんだ英語をもとに意味を推測し、活動する様子も見られるようになってきた。

英語に関わる児童評価では、「英語の学習に楽しんで参加していますか?」という設問に86%の評価をしている。また、「小学校で英語の学習をすることは、大事だと思いますか?」の設問に対して、児童評価は94%、保護者評価でも97%の評価をいただいております。英語教育への関心の高さがうかがえる。(評価は、「そうだと思う」・「ややそうだと思う」の割合を表している。)

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

全国学力学習状況調査質問紙調査から、以前は「自分には、よいところがあると思いますか」、「将来の夢や目標を持っていますか」、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目で全国の児童より下回っている様子が伺えた。しかし、ここ数年間の推移をみると、全体的な傾向として肯定率の高まりが徐々にではあるが見受けられるようになった。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の項目に関しては、肯定的な回答をしている児童の割合が90%を超えており、社会に貢献したいと思う児童の割合が高い。英語科の取組や他の学校生活での活動を通して、子どもたちが自信を高め、何事にも積極的にかかわろうとし、「自分をみがこう 仲間とともに」という学校目標の姿につながってい

るように感じている。

#### 4. 課題の改善のための取組の方向性

英語専科の配置がないため、担任の英語指導力向上を図っていくことが必要である。そのために、教職員の研修機会の保障や教材研究の時間の確保などがあげられる。しかし、他の教科の教材研究・準備があるなかで英語ばかりに時間を割くことは難しい。今後、MICに協力いただきながら、効率的に教材研究・準備に取り組んでいければと考える。